

第2回技術検討委員会報告会

技術的な面での塗装について

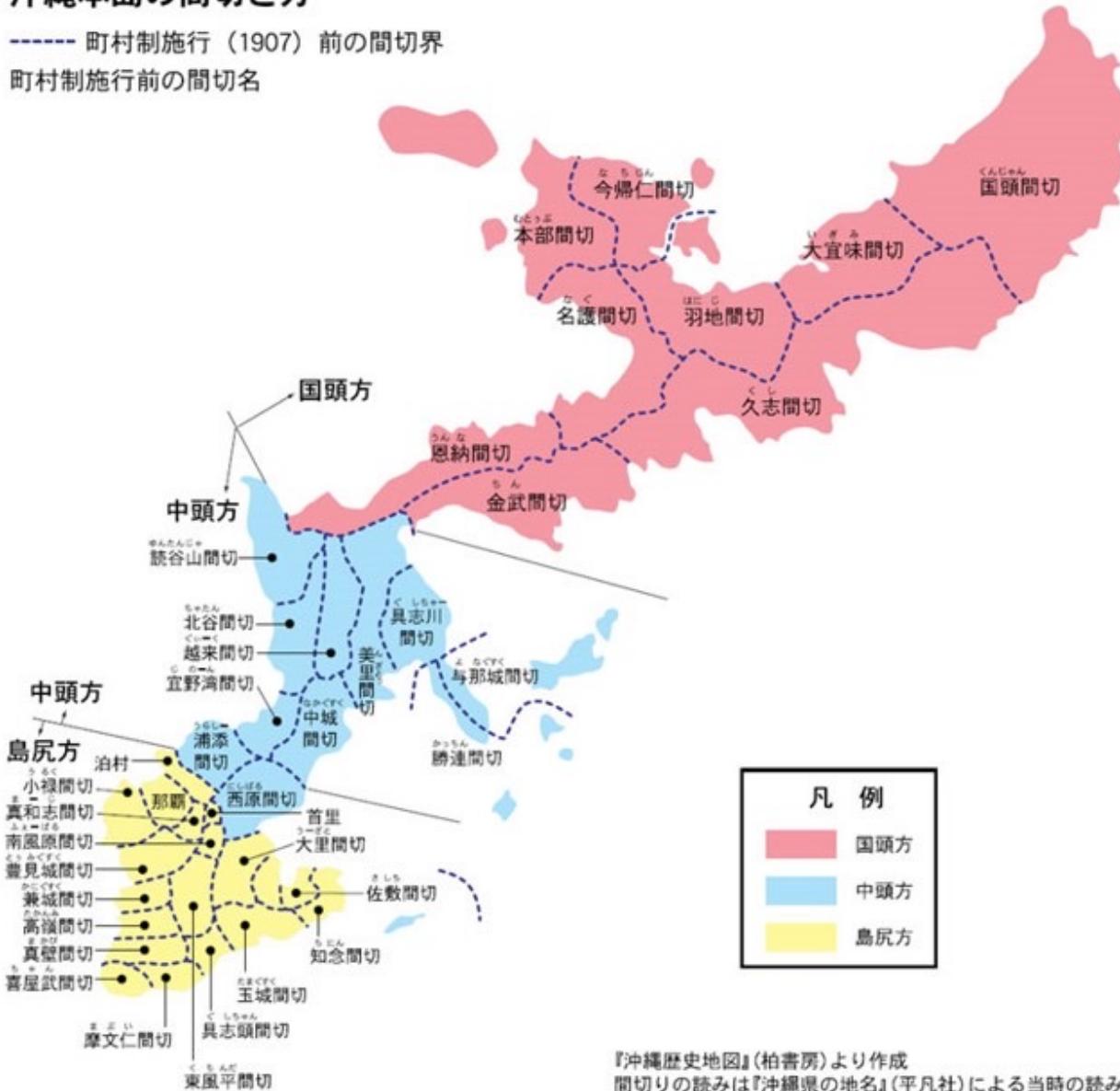
室瀬和美

桐油塗と久志間切弁柄

沖縄本島の間切と方

----- 町村制施行（1907）前の間切界

町村制施行前の間切名



『沖縄歴史地図』(柏書房)より作成
間切りの読みは『沖縄県の地名』(平凡社)による当時の読み



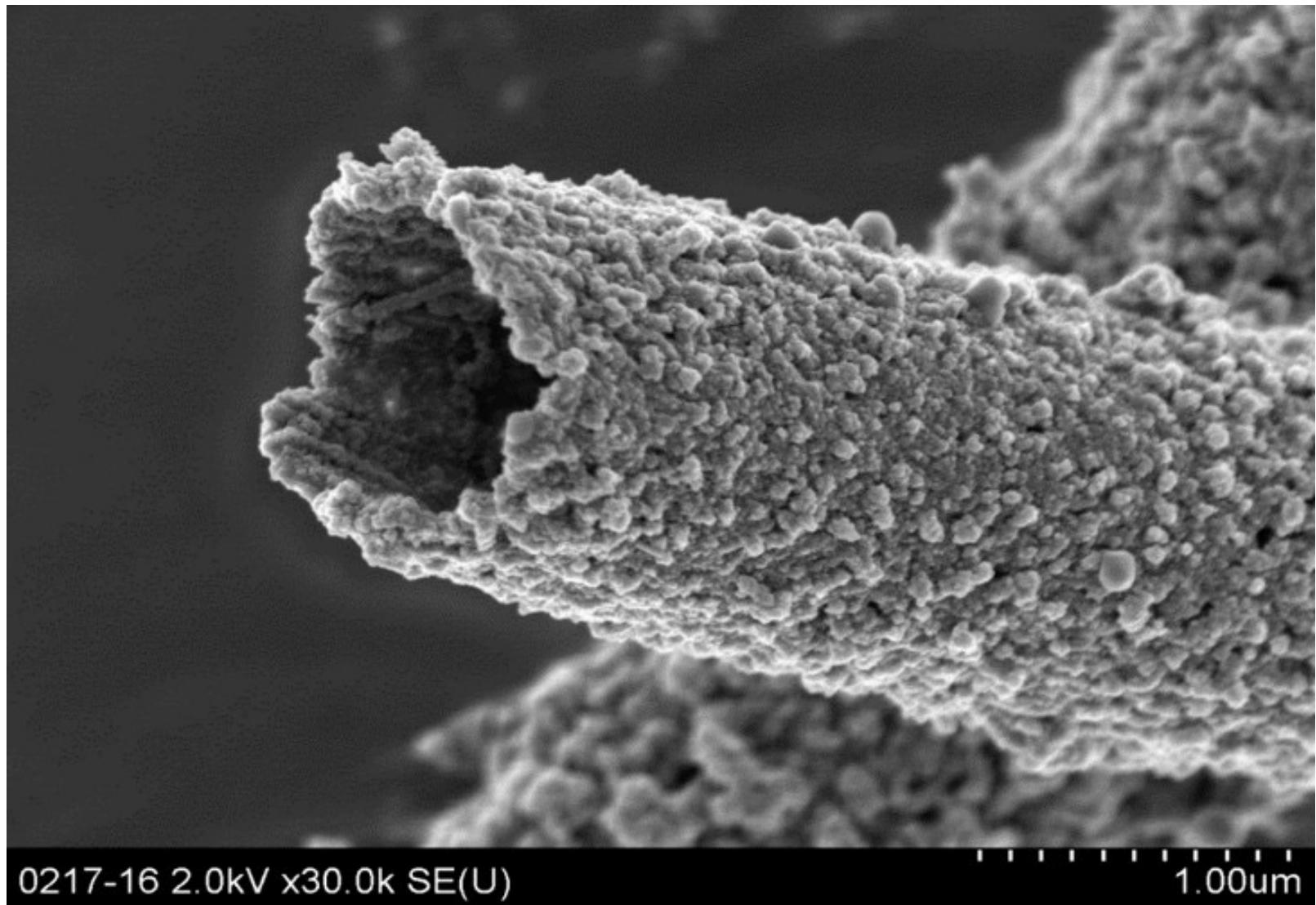




0217-10 8.0kV x800 SE(L)

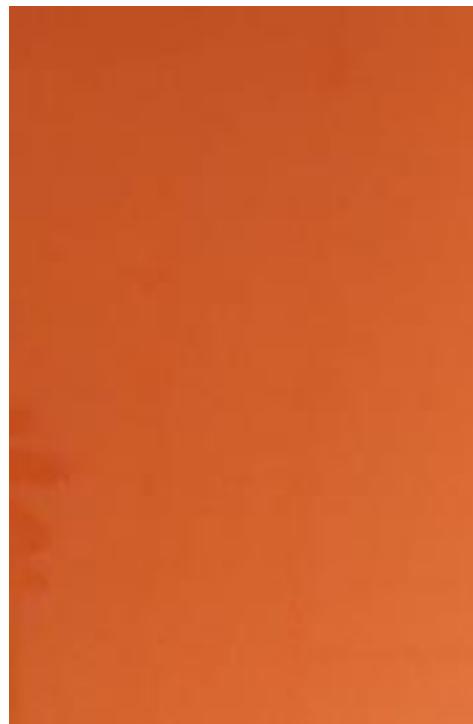
50.0um

岡山大学 高田研究室撮影



岡山大学 高田研究室撮影





平成復元の市販弁柄



BIOX弁柄

黄塗と黄色塗

明和六年（一七六九）八月二十一日条

（前略）

右御風呂屋之者御先（ニ）遣し、御用済分
御溜道具（ニ）差添南野居泊（セ）候筈、

一、黄塗御長持 壱棹

節々御供（ニ）而差遣候筈、

御用候ハ、諸事此壹棹（ニ）而□合候付、

刎蓋御挾箱等ハ不差遣候、

一、御入湯御用（ニ）付、

御湯桶 壱ツ

御手洗 壱ツ

御懸り湯桶 壱ツ

御湯水溜桶 武ツ

御手桶 武ツ

御小桶 三ツ

（中略）
右之品々船（ニ）而御先（ニ）相廻候筈、

「尾州御小納戸日記」（徳川林政史研究所所蔵）

安永四年（一七七五）十月十一日条

一、今晚七ツ半時御目覚御湯御□被為済、

御祠堂奥御神の御拝被遊、六ツ半時

出御為御泊鷹野起宿（江）被為

成候、

右（ニ）付一件左（ニ）記、

十日

一、明十一日六ツ半時の御供□（ニ）而起宿御泊り鷹野
被為成候旨被仰付候、

御供左之通

（中略）

一、御本陣御風呂屋□軒御道中之通御本陣迄出候、
一、黄塗御長持 壱棹

但常々御延氣出御之通日々御□所へ相廻、

一、御夜具御長持 壱棹

一、御風呂屋御長持 武棹

右之分御先（江）

一、刎蓋御挾箱 壱荷

一、御幕串 合羽□桶 同 壱荷

同 壱荷

（以下略）

御□櫛 合羽□桶 御幕串

同 壱荷

古代の史料の中で、「黄牛（こうぎゅう）」という言葉が出てきて、これは黄色ではなく、飴色の牛を指す。

また、鷹狩で用いる鷹のうち、若い鷹を「黄鷹（きだか／わかたか／おおたか）」と呼んでいた。オオタカは幼鳥の時は胸の羽が茶色く、成鳥になると白く変化するのですが、「黄鷹」はこの幼鳥の時の茶色の羽に由来している名前。

こう考えると、黄色＝飴色（茶色に近い色）を指す可能性もある。

「黄漆」の「黄」を「茶色っぽい色（飴色？）」と認識している可能性もある。

「飴色の漆」だと、くろめ漆を塗っているような色になる。



白檀塗樓閣山水箔繪湯庫（写真提供・所蔵 浦添市美術館）



平成復元時おせんみこちや



金磨



復元樂器（三金、新心、三板、両班）



漆器(復元楽器)収蔵品No.416



搔き合わせ真塗

